

# 庁議の概要

開催日 平成 21 年 3 月 23 日 (月)

## 項 目

- 1 平成 21 年度人事定期異動等について【総務部】
- 2 各部局等の動向について【各部局等】
- 3 その他

## 内 容

- 1 平成 21 年度人事定期異動等について【総務部】

総務部より、平成 20 年 4 月 1 日付人事異動の概要を配布のうえ概要説明があり、意見交換を行った。

### 【概要説明】

- ・ 人事異動の規模は、知事部局で 1,424 人となっている。
- ・ 大幅な組織の再編を行い、庁議、政策調整会議メンバーをはじめ、幹部職員は大幅に異動している。
- ・ しかし、全体としては、職員数が減少していることもあり、過去と比較しても、それほど大きな異動規模にはなっていない。
- ・ 昇任の状況は、1 等級が 19 人、対比前年 - 2 人。2 等級の昇任者が 47 名、対前年度 + 7 名である。3 等級の昇任者が + 26 名で、これは昨年度が比べて 16 名と大幅に増加している。
- ・ 新規採用職員の数、今回 71 人で、国からの割愛採用を除くと 63 名であり、児童相談所の充実、将来を見据えて採用を進めていくというようなことで、今回 63 名の採用を行ったことから、昨年の 40 名に比べると 23 人の大幅な増加となっている。

### 【主な意見】

#### 〔知事〕

- ・ 皆さんのお陰で、この一年間、存分に仕事をさせてもらったと思っている。
- ・ 今まで、高知県庁、民間がいろいろな努力をしてきたが、県勢は低迷を続けている。この状況を何とか打開していかなければならないと、非常に焦る気持ちもあったが、あえて大きく伸び上がるためには、一歩下がって、じっくりと構えて仕込みということをしていかなければならないと考えた。
- ・ 産業振興計画がその典型であり、本当ならば、すぐさま実行体制に入って、それぞれの県政浮揚策を取るといったやり方もあったかもしれないが、あえて一段下がって、今の経済状況を分析し、我々が取るべき方向性というものの再確認をしなければならぬと考えたところである。
- ・ 健康福祉行政にしても、また危機管理行政にしても、教育の問題についても、それぞれ根本的な課題を抱えていく中で、いかに本質的にアプローチをしていくかということ、やらなければいけないと考えたところである。
- ・ それゆえに、非常に大変な一年間であったと思っている。あえて、平地を断崖絶壁を進むかのように、掘り下げて掘り下げて、安易に進めるところを、あえて立ち止まって考えていくということを繰り返した一年ではなかったかと思っている。
- ・ それだけに、多くの方は、従来に比べて大幅に業務量が増え、また精神的にも非常にストレスを感じたことと思う。

- ・ しかしながら、最近、私はほぼ1週間に2回から3回のペースで講演に行ったり、シンポジウムに出たりと  
いうことをしているが、終わった後、必ず多くの方に、いよいよ県政浮揚に向けて本気で取り組むつもりな  
んだということを言ってもら。本気でやろうとしているということを感じるということを多くの方に言っ  
てもらえるようになった。
- ・ 例えば、産業振興計画は、昨年の中間取りまとめの段階では、絵に描いた餅だとかいう批判がすごく多かつ  
たわけだが、今の段階では、そういうことを言う人は非常に少なくなってきたのではないかと思う。
- ・ ただ、県庁の組織一丸となって、本当に実行できるかどうか。それが課題であるということ言ってもら  
ることが多くなってきたように思う。大いなる前進だと思う。
- ・ 本当に大変な状況の中で、一年間の仕事の成果が一つ大きくかたちとなって現れてきたものが、先の県議会  
ではなかったかというふうに思う。当初予算について、全会一致で承認をもらうことができ私自身大きく勇  
気もらった。当初予算の段階で、全会一致で議決を得ることができるというのは、かつて県議会ではなか  
ったことだそうである。
- ・ 今回の人事配置にあたっては、基本的に、来年の龍馬伝を含め、今後2年間を睨んで、実行を続けていく体  
制にしたいという考え方の下、一世代若返りを図らせてもらうこととなっている。
- ・ 本当に残ってもらい、引き続き活躍してもらいたい方がたくさんいるが、やはり来年、龍馬伝とい  
う最高のチャンスの途中で人事的な寸断ができることはいかがなものであろうかという思いもあり、今回、  
世代交代を図らせてもらったところである。
- ・ さらに、次のステージに進む庁議メンバーには、是非とも新しいステージのもとで、また我々に対して、大  
所高所からの、それぞれの立場からアドバイスをもらいたいと考えている。
- ・ また、引き続き、残ってもらう庁議メンバーについては、来年度はいよいよ実行元年である。本気でやると  
いう姿勢が見えてきたと褒めてもらっているところではあるが、まだまだ、「でも、いつまで続くかね」と  
いう冷めた目もあるので、本気で実行するという体制を維持していくためにも、大いに活躍してもらいたい  
と考えている。

## 2 各部局等の動向について【各部局等】

政策企画部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布のうえ、各部局等より概要説明があり、意見交換を行った。

## 3 その他

危機管理部より、各部局の危機管理体制の引継ぎについての依頼、説明があった。